

1) 生育状況について

コシヒカリの稈長、穂長、キヌヒカリの稈長はほぼ平年並で、キヌヒカリの穂長はやや長くなっています。

病害は、いもち病・紋枯病が一部のほ場で見られましたが、少ない状況です。

ウンカ類について、ヒメトビウンカ、セジロウンカの発生が見られましたが、少ない状況です。カメムシ類では、イネカメムシが一部圃場で多く発生しています。圃場をよく観察して注意してください。

病害虫	いもち病 紋枯病	セジロウンカ ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ	トビイロウンカ (秋ウンカ)	カメムシ類
発生 現況	少	少	微	中
発生 予想	平年並	並	平年並	多

品種	項目	年次	9月6日
コシ	穂長 (cm)	本年	19.3
		平年	18.6
		比	104%
	稈長 (本)	本年	93.7
		平年	84.1
		比	111%
キヌ	穂長 (cm)	本年	21.4
		平年	78.7
		比	120%
	稈長 (本)	本年	81.9
		平年	17.8
		比	104%

2) 今後の栽培管理について

コシヒカリは収穫期に入っています。キヌヒカリは、9月中旬頃刈取となりますが、早期落水による田面の過乾燥は、登熟不足や胴割れ米、乳白米の原因となりますので、刈取の7~10日前まで適度な湿りを保ちましょう。山田錦は登熟期間中です。酒米は特に胴割れや穂発芽を起こしやすい為、刈遅れないように、出穂期を把握しておきましょう。

病害は今後の天候によっては発生の可能性があるため、引き続き注意が必要です。

虫害は、ウンカ類については、防除が必要な密度には達していませんが、山田錦、ヒノヒカリでは引き続き秋ウンカの発生状況に注意してください。

3) 刈取適期について

刈り取りのポイント

- ・平均的な穂の充実した籾の85%が黄化したとき
- ・早刈りは、未熟米、くず米が増える原因となるので避ける
- ・遅刈りは、胴割れ、茶米、玄米の光沢が落ちる原因となるので避ける

早刈り、遅刈りを避け、適期収穫に努めましょう。

また、一部キヌヒカリ圃場にて、田面乾燥により茎が枯れ始めている圃場が見受けられました。刈取の7~10日前までは適度な湿りを保ちましょう。

次回は収量調査を実施します。令和4年9月27日(火)です。

お問合せ先 J A兵庫六甲 神戸北宮農総合センター

TEL : 078-981-5540 FAX : 078-981-5817

1) 生育状況について

山田錦の生育状況は、草丈、茎数共にほぼ平年並となっています。出穂期は平年並か平年より2~3日早い見込みです。

病害は、いもち病・紋枯病が一部のほ場で見られましたが、少ない状況です。

ウンカ類について、ヒメトビウンカ、セジロウンカの発生が見られましたが、少ない状況です。カメムシ類では、イネカメムシ、ホソハリカメムシ、アカスジカスミカメが一部圃場で発生しています。

病虫害	いもち病 紋枯病	セジロウンカ ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ	トビイロウンカ (秋ウンカ)	カメムシ類
発生 現況	少	少	無	中
発生 予想	平年並	やや多	平年並	やや多

品種	項目	年次	8月19日
山田錦	草丈 (cm)	本年	102.0
		平年	100.7
		比	101%
	茎数 (本)	本年	23.1
		平年	22.7
		比	102%

2) 今後の栽培管理について

コシヒカリ、キヌヒカリは現在、登熟期間中です。早期落水による田面の過乾燥は、登熟不足や胴割れ米、乳白米の原因となりますので、刈取の7~10日前まで適度な湿りを保ちましょう。山田錦は出穂の時期を迎えます。出穂後は地温を下げるため、間断灌水を心がけましょう。

病害は今後の天候によっては発生の可能性があるため、引き続き注意が必要です。

虫害は、ウンカ類については、防除が必要な密度には達していませんが、山田錦では引き続き秋ウンカの発生状況に注意してください。

カメムシ類については、対応が必要なほ場があります。今後一か月の平均気温は高いと予想されており、増殖に好適な条件となるため、ほ場で発生状況を確認して対策をとりましょう。

3) カメムシ類対策について

山田錦は9月5日頃(出穂5日後~1週間後)に2回目の防除を行いましょう。

2回目: スタークル粒剤(3kg/10a) 又は
スタークル豆つぶ(250g/10a) で防除しましょう。

2回防除により、不稔と斑点米の被害を軽減できます。

1回目の防除をされていない方は、8月末に上記薬剤で防除を行いましょう。

4) その他

9月に入りますと、コシヒカリ、キヌヒカリの収穫時期になります。「平均的な穂の充実した籾の85%が黄化したとき」が刈取適期です。早刈り、遅刈りを避け、適期収穫に努めましょう。

次回の調査予定日は、令和4年9月6日(火)です。

お問合せ先 J A兵庫六甲 神戸北宮農総合センター

TEL: 078-981-5540 FAX: 078-981-5817

1) 生育状況について

コシヒカリの生育状況は、草丈はやや高く、茎数は平年並となっています。キヌヒカリ・山田錦は、草丈、茎数共にほぼ平年並となっています。

病害の発生状況は、いもち病・紋枯病が一部の圃場で見られましたが、少ない状況です。

ウンカ類について、ヒメトビウンカ、セジロウンカの発生が見られます。トビイロウンカ(秋ウンカ)は確認されませんでした。

カメムシ類について、イネカメムシが一部圃場で発生しています。

病害虫	いもち病	セジロウンカ ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ	トビイロウンカ	カメムシ類
発生現況	微	少	無	中
発生予想	平年並	やや多	平年並	やや多

品種	項目	年次	8月2日
コシ	草丈 (cm)	本年	115.0
		平年	100.9
		比	114%
	茎数 (本)	本年	29.0
		平年	28.3
		比	101%
キヌ	草丈 (cm)	本年	92.6
		平年	99.0
		比	94%
	茎数 (本)	本年	22.4
		平年	22.6
		比	99%
山田錦	草丈 (cm)	本年	87.0
		平年	85.2
		比	102%
	茎数 (本)	本年	23.5
		平年	22.7
		比	103%

2) 今後の栽培管理について

コシヒカリ、キヌヒカリは出穂～穂揃い期に入ります。出穂期前後は湛水管理とし、出穂1週間後からは飽水管理(表面に水がたまらない程度)により、根の活力を維持しましょう。

山田錦は穂肥の時期を迎えます。圃場での幼穂の長さを確認し、適期施用を行いましょう。特に、2回目の追肥は粒張りを向上させる重要な作業です。

病害は今後の天候によっては発生の可能性があるため、引き続き注意が必要です。

虫害は、ウンカ類については、防除が必要な密度には達していませんが、秋ウンカは今後、発生の可能性があるため注意してください。カメムシ類については、対応が必要な圃場があります。発生状況を確認し、対策をとりましょう。

3) カメムシ類対策について

コシヒカリ、キヌヒカリでは、2回目の防除を8月上旬(出穂後)に行いましょう。山田錦は8月20日頃(出穂前)と9月5日頃(出穂後)に2回防除を行いましょう。

1回目(出穂前)：トレボン乳剤(2000倍、60～150L/10a)で防除しましょう。

2回目(出穂後)：スタークル粒剤(3kg/10a)又は
スタークル豆つぶ(250g/10a)で防除しましょう。

2回防除により、不稔と斑点米の被害を軽減出来ます。

4) その他

早期落水による田面の過乾燥は、登熟不足や胴割れ米、乳白米の原因となりますので、刈取の7～10日前まで過度な湿りを保ちましょう。

次回の調査予定日は、令和4年8月19日(金)です。

お問合せ先 J A兵庫六甲 神戸北宮農総合センター

TEL: 078-981-5540

FAX: 078-981-5817

1) 生育状況について

コシヒカリ、キヌヒカリの生育状況は、草丈はほぼ平年並み、茎数は平年よりやや少なくなっています。山田錦は、草丈、茎数共にほぼ平年並となっています。

病害の発生状況は、いもち病が一部の圃場で見られましたが、少ない状況です。

ウンカ類について、ヒメトビウンカ、セジロウンカの発生が少し見られます。

カメムシ類について、イネカメムシが一部圃場で発生しています。

苗の種類	項目	年次	7月15日
コシ	草丈 cm	本年	83
		平年	80.6
		比	103%
	茎数 本	本年	24.5
		平年	28.7
		比	85%
キヌ	草丈 cm	本年	78
		平年	74.9
		比	104%
	茎数 本	本年	19.5
		平年	22.0
		比	89%
山田錦	草丈 cm	本年	62
		平年	62.5
		比	99%
	茎数 本	本年	22.6
		平年	23.1
		比	98%

病虫害	いもち病	セジロウンカ ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ	トビイロウンカ	カメムシ類
発生現況	微	少	無	中
発生予想	平年並	やや多	平年並	やや多

2) 今後の栽培管理について

コシヒカリ、キヌヒカリは出穂期に入ります。出穂期前後は湛水管理とし、出穂1週間後からは飽水管理（表面に水がたまらない程度）により、根の活力を維持しましょう。山田錦は幼穂形成期に入ります。中干しを終え、出穂期まで間断灌水を実施しましょう。

病害は今後の天候によっては発生の可能性があるため、引き続き注意が必要です。虫害は、ウンカ類については、防除が必要な密度には達していませんが、カメムシ類については、対応が必要な圃場があります。発生状況を確認し、対策をとりましょう。

3) カメムシ類対策について

畦畔の草刈りは出穂の2週間前までに行ってください。出穂期に畦畔刈を行うとカメムシ類を本田に侵入させることになり、斑点米の原因となりますので注意してください。

コシヒカリ、キヌヒカリでは、7月下旬（出穂前）と8月上旬（出穂後）に2回防除を行いましょう。山田錦は8月20日頃（出穂前）と9月上旬（出穂後）に2回防除を行いましょう。

1回目（出穂前）：トレボン乳剤（60～150L/10a）で防除しましょう。

2回目（出穂後）：スタークル粒剤（3kg/10a）又は
スタークル豆つぶ（250g/10a）で防除しましょう。

4) その他（雑草対策）

一年生雑草及び多年生広葉雑草が発生している場合は
アレイルSC（収穫45日前まで、出穂始期15日前まで）で防除しましょう。

次回の調査予定日は、令和4年8月2日（火）です。
 ＊お問合せ先＊ J A兵庫六甲 神戸北宮農総合センター
 TEL：078-981-5540 FAX：078-981-5817

神戸市北区内の水田生育状況及び病虫害発生状況について6月28日に調査しました結果を本紙にてご案内いたします。今後の水稻栽培管理にご活用ください。

1) 病虫害について

病虫害	発生程度	発生予想	概要	今後の対策
いもち病	無	並		緊急の対策は必要ありません。 圃場観察と栽培暦に準じた適期防除に務めてください。
縞葉枯病	無	並		
セジロウンカ	微	並	わずかな発生がみられます。	
ヒメトビウンカ	微	並	わずかな発生がみられます。	
ツマグロヨコバイ	微	並	わずかな発生が見られます。	
斑点米カメムシ	無	並		

※発生程度の小さい順に、無・微・少・中・多・甚（中以上で要防除）

2) 生育状況について

品種名	草丈	茎数	今後の栽培管理について
コシヒカリ キヌヒカリ	並	少～並	畔草の刈取は出穂の2週間前までに行ってください。 出穂期に畔草刈を行うと、カメムシを本田に侵入させることになり、斑点米の原因となりますので注意してください。
山田錦	並	少～並	中干し時期に入ってきています。茎数を確保（15～19本）できれば遅れずに開始し、倒伏しにくい稲株にしましょう。

3) その他

兵庫県病虫害防除所より「ウンカ類」の発生予想は「やや多」と予想され、いもち病の発生予想は「平年並」と予想されています。

一部圃場にて藻類の発生やホタルイ等の雑草が見られましたので、圃場をよく確認して下さい。

薬剤	適用雑草	使用時期	10aあたり 使用量	使用回数
モゲトン 粒剤	ウキ草類、藻類 (アオミドロ・アマミドロ)	ウキ草類・藻類の発生始め～発生盛期（収穫45日前まで）	2～3kg	3回以内
クインチャーバス ME (移植水稻)	一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ、ウリカ、ミスガヤツリ、ハラモダカ、オモダカ、セリ、クログワイ、コウキカガラ、シズイ、キシウスズメノヒエ	移植後15日～ルビエ5葉期、 収穫50日前まで	薬量:1000ml 希釈水量: 70～100ℓ	2回以内
アレイルSC (移植水稻)	一年生雑草及び 多年生広葉雑草	移植後25日～ルビエ5葉期、 収穫45日前まで ※出穂始期15日前まで	薬量:500ml 希釈水量: 50～100ℓ	1回以内